

# Q&A 先月の技術相談から

## 木材の名前について

一口に木と言っても、世界中で数千もの種類の樹木が使われており、それぞれの種類に名前がついています。木材木製品の輸入が増え、輸入相手地域も増えてくると、見たことのない木材、聞いたことのない名前の木材が登場してくることになります。林産試験場には、木の名前からそれがどのような材質なのか、逆に、日本で〇〇と呼んでいる樹種を外国語では何というのかといった、木の名前に関する質問も寄せられますので、数例ご紹介します。

**Q 1：東南アジアから輸入しようとしている木材が「シンゴン」というのですが、どのような木材ですか？（木材業）**

A 1：カタカナで「シンゴン」ということですが、外国の樹種では、現地語の発音をカタカナに置き換えたり、アルファベット表記をローマ字読みしたりする時に名前が化けることがあります。日本語なら概ね察しがつきますが、発音が日本語と異なる外国語では、かなり変わって伝わってしまうことがあります。東南アジア産木材の名前が出ている資料を調べ、近い発音のものを探したところ、センゴン (Sengon, 学名 *Falcataria moluccana* (MIQ.) BARNEBY & J. W. GRIMES, 異学名 *Albizzia falcataria* 他多数) という、ニューギニア島、モルッカ諸島等の太平洋の熱帯の島々に自生するマメ科の樹種がありました。成長が早く、熱帯、亜熱帯の多くの国々で植林されています。サラワクでは「カユマチス」、インドネシアでは「センゴン」、ジャエウンディン、フィリピンでは「モルッカサウ」、マレーシアでは「バタイ」等々、原産地域周辺だけでも様々な名前と呼ばれる上に、ハワイでは「アルビジア」、流通上の英語では「モルッカ・アルビジア」、日本では「モルッカネム」、「ファルカータ」、「南洋桐」など、実に様々な名前です。木材は密度が0.38(0.23~0.49)g/cm<sup>3</sup>と軽軟で、淡色の加工しやすい材質を持ち、お菓子の箱などに使われているのをよく見かけます。昔から箆笥などに使われるキリとは別樹種ですが、材の外観が似ているため「南洋桐」と呼ばれたのです。相談者に木材の外観上の特徴を訊ねると、ぴったり一致しました。

**Q 2：「まいりざくら」というサクラの材について知りたいのですが、図鑑やインターネットなどで調べても見つけれません。（美術館学芸員）**

A 2：美術館の所蔵する木彫作品で、素材が「米理桜（まいりざくら）」と記されているとのことですが、作者は箱根組木細工を作っていた経歴があり、いろいろな種類の木材を使ってきたと考えられます。一口にサクラと言っても、これもたくさんの種類、品種があり、カンバ材を「カバザクラ」と呼ぶ例もあるように、特殊な業界用語もあるかも知れません。木材業界団体や箱根組木細工の業界、「日本さくらの会」にも問い合わせましたが、全く分かりませんでした。手がかりはないかと、古い植物図鑑を見ていたとき、目が止まったのが「朱里桜」「朱利桜」の文字でした。この「朱」の文字を走り書きで崩したら「米」に見えないか？「里」と「利」が共に使われるなら、読みが同じ「理」が使われてもおかしくないように思えました。

シウリザクラ (*Prunus ssiori* F. SCHMIDT) は木材業界では「シュリ」とも呼ばれている、北海道、東北などに産するサクラの仲間です。木材はヤマザクラなどの他のサクラ類同様、褐色の心材を持ち緻密で硬く、器具材、家具材、彫刻、楽器等に使用され、林産試験場庁舎棟の木製窓枠の材料でもあります。相談者に伝えたところ、確かにそのように見えるとのことでした。

**Q 3：アメリカの木材で「ツペロ」という名前の木はありますか？また、この材を「アメリカシナ」という商品名で売り出すことに問題ないですか？（合板製造業）**

A 3：トゥーペロ (Tupelo, 属学名 *Nyssa* GRONOV. ex L.) という一群の広葉樹があります。この樹種の材を「アメリカシナ」という名前で売り出すことは、北米産の別樹種であるアメリカンバスウッド (学名 *Tilia americana* L.) がシナノキの代替材として輸入されており、これが既に「アメリカシナ」と一般的に呼ばれているので、混乱を招いてしまいます。

このように、同じ樹種の木材が様々な名前と呼ばれていたり、似て非なるものがあっても同じである

かのように誤解されかねない名前がつけられていたりすることは稀ではありません。インターネット情報の中にも、誤った名前が拡散され、正しいものより件数が多くなってしまっている場合もあります。林産試験場でも、必ずしも特定できないことがありま

すが、木の名前で困ったときは、お問い合わせいただければと思います。

(利用部 資源・システムグループ 佐藤真由美)